

エコロジーはエコノミー ムダを省いて、企業力を向上させる

株式会社ホクノー（北海道札幌市）

北海道内に5店舗のスーパーマーケット・ショッピングモール、そして焼き肉と串揚げの専門店2店舗を展開する株式会社ホクノー。創業以来一貫して、食の安全・安心にこだわり、地域の皆様の生活を支え続けてきました。そうした地道な経営の延長線上に、環境への取り組みがクローズアップされてきたのは、時代の流れなのかもしれません。取引先から背中を押されるような形で環境マネジメントシステムの導入を考えるようになったという同社ですが、名より実とエコアクション21を選択して、今日に至っています。



代表取締役社長 野地 秀一

企業経営と環境活動の調和を図り、環境汚染の防止や資源の有効利用に努めて、より良い地域社会の実現をめざす。同社の環境方針は、けしてお題目にならず、着実に効果を上げています。そんな同社にみる環境と経済の両立、そこに至るまでのエコアクション21導入の経緯や成果など、興味深いお話を伺いました。

契機

どうせやるなら実のある方がいいと選びました

グリーン商品を扱う取引先から、環境マネジメントシステムの導入を薦められたことがきっかけになっています。そこから、ISO14001とエコアクション21を勉強して、「何のためにやっているのかがわかる」のがエコアクション21でした。ISO14001はコストも負担も大きくて、どこか取得自体が目的になっているような気がして…環境省がお勧めしているのだからいいシステムなのだろうと、エコアクション21の導入を決めました。

正直、苦勞らしい苦勞が思い当たらないんです

エコアクション21の苦勞は、審査人の方に全部、肩代わりしてもらっているような感じです。導入するときはもちろん、日々の環境活動に当たっても、わからないところを丁寧に教えていただくものですから、苦勞しらず!?で、ここまで来てしまいました。節電・省エネ・ゴミ減量の3つにしても、少し行き詰まっていたら、「地域とのつながりとか、社会貢献にも目を向けてみましょう」と、フォローアップ研修とかで教えていただきました。

苦勞

効果

ムダを省いて生まれた原資で設備投資できました

普段の何気ない、自分たちでできることから取り組めるのが、エコアクション21のいいところですね。エコアクション21でムダを見つけて、そのムダを省いていくと、当たり前ですが経費を削減できます。これはそのままでも収益の向上につながるわけですから、環境活動（エコロジー）は企業経営（エコノミー）なわけです。エコアクション21の活動を通して削減した「経費」を原資に、館内の全照明装置をLEDに変更できたことは、大変大きな成果だと思っています。

株式会社ホクノー（代表取締役社長 野地 秀一）

札幌市厚別区もみじ台北7丁目1-2

創業：1956年7月

資本金：48,000万円

事業内容：食品小売、雑貨書籍販売および不動産、公園施設の管理、飲食

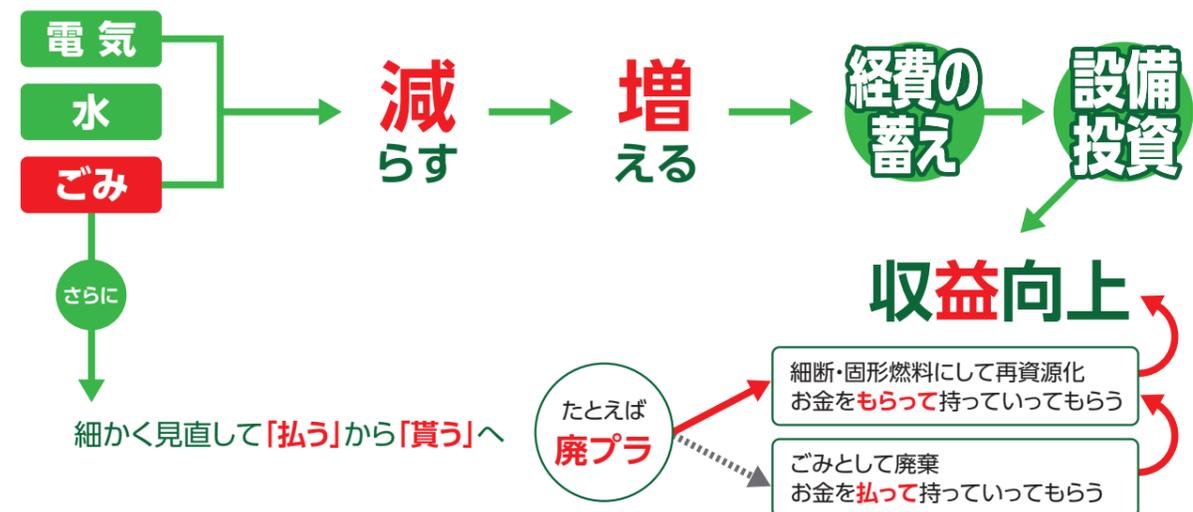


EA21認証・登録番号:0001670

(最新の環境活動レポートは <http://www.ea21.jp/list/pdf/0001670.pdf>をご覧ください)

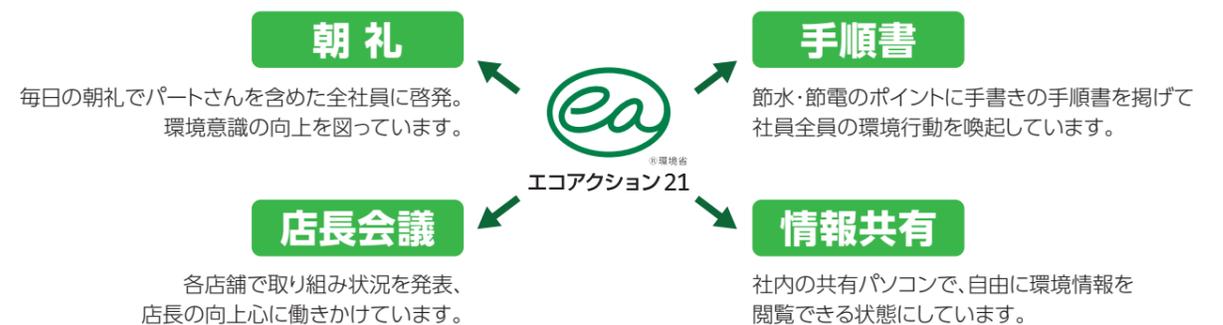
環境負荷削減へのユニークな取り組み

エコロジーがエコノミーにつながる、基本的な省エネ活動を続けています。



エコロジーを社内に浸透させるために

職場のさまざまな場面で、エコロジー=エコアクション21を推進させています。



これからの夢

モノからコトへ～もみじ台のコミュニティセンターをめざして

私どもの本社が置かれている、ここもみじ台は、人口の減少が激しく、高齢化率も札幌市で2番目となっています。エコアクション21を通して地域貢献していく過程で、あらためて地域に食を提供して地域の中で生きてきた「原点」のようなものを感じるようになりました。スーパーマーケットから、地域の皆さんが集う憩いの場、地域のコミュニティセンターになりたいと思うんです。そして、地元もみじ台がすやかに暮らせる街であり続けられるように、これからも努力していきたいです。